

「サッカーで言うなら、ミッドフィールダーになってほしい。全体を見回し、戦略的にパスを回せる集団が必要だ」野田佳彦新首相は三十一日、民主党新役員が承認された両院議員総会で、新体制をサッカーの布陣に例えてチームプレーを呼びかけた。ミッドフィールダーは中盤に位置し、攻撃と守備のバランスを取りながら双方に参加するポジション。野田氏は「私も含め(点取り屋の)センターフォワードになりたい人はいっぱいいる。だけど、この党に一番必要な役割は、一人一人のかけがえのない同志が、存分に力を発揮する体制だ」と述べ、縁の下の力持ちの大事さを説いた。

東京新聞 2011年9月1日 朝刊

(1) 本文の中で、「縁の下の力持ち」は違うメタファーの系列と思われるが、このメタファー表現の意味を説明しなさい(上下、視覚的意味、力などに注目すること)。

(2) このメタファー表現に関連して、g, h などの「御輿(を担ぐ)」という表現がある。

a. 神輿に乗る人かつぐ人そのまたワラジを作る人

b. 「オヤジさん。言うといたるがの。あんたはわしらが担いどる神輿じゃないの。組がここまでするのに誰が血流しとるの。神輿が勝手に歩けるいうなら、歩いてみいや。おお。わしの言うとおりにしとりゃ、わしらも黙って担ぐわ。のお、おやっさん。喧嘩はなんぼ銭があっても勝てんので。」(仁義なき戦い)

(1)と(2)はどのような点が類似していて、どのような点が違うか。なお、オヤジさんとは組長のことである。

a と b はどのような点が類似していてどのような点が違うか (2 箇所)